

大麦で 持続可能な まちづくりを



古くから農業が基幹産業の上越市で今、耕作放棄地の増加が大きな課題になっています。将来にわたって持続可能なまちづくりを目指す観点から、耕作放棄地で大麦を育て活用する、という新たな取り組みが始まっています。

大麦栽培から 商品開発も

活動の主体は「上越青年会議所（上越JC）」の（サステナブル上越委員会）。人口減少をはじめ、上越市を取り巻くさまざまな課題を検討する中、基幹産業の農業で耕作放棄地が県内トップクラスで多い現状に着目。耕作放棄地の活用こそ、持続可能なまちづくりへの第一歩になると考えました。

専門家のアドバイスを踏まえ、耕作放棄地で栽培する作物に大麦を選定。品種は、菓子やパンなどに適した「はねうちもち」と、ビール向けの「ゆきはな六条」の2種類。昨年10月、委員会メンバーの農業者が実際に管理している耕作放棄地に種をまき、厳しい冬を越えて今年6月、250〜300kgを初めて収穫しました。

「生産して終わり」ではなく、需要開拓と販路拡大のため、市内企業に商品開発の協力を呼びかけました。賛同した企業からは、餃子の皮、ラーメンの麺、ジェラートなど、多彩なアイデアが寄せられ、県立高田農業高校でも、イベント出店で人気のマドレーヌへの使用が決定しています。

（上越JC）としても、研究機関

に指導を仰ぎつつ、市内になかった地ビール、クラフトビールの開発を企画。醸造はこだわりのクラフトビールづくりに定評のある十日町市の（妻有（つまり）ビール）に依頼しました。上越らしさを出したい、と上越市内でせん定された桜を用い、桜色・風味の「桜フレーバー」にする予定。8月初旬から仕込みが始まっており、10月には330mlの瓶で1000本分が仕上がる見込みです。

活動継続で夢広げ

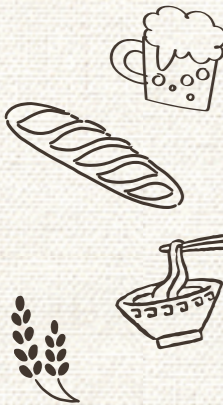
活動の発信を目的に、10月22日、（直江津ショッピングセンターエルマール）で「大麦フェスティバル」を開催。前日に瓶詰めされる、上越発クラフトビールの無料配布（先着順）や、協力企業の大麦商品販売などを計画しています。

（上越JC）の活動は原則的に単年度事業ですが、大麦の生産、クラフトビール造り、イベント開催は「実行委員会を立ち上げ、今後も続けたい」と委員長の樋口健太さん。市内企業とのコラボレーションや、ビールのフレーバーのバリエーションを増やすことで需要が拡大し、耕作放棄地の活用も増え、雇用の創出や特産品開発による市内経済の活性化につながるのでは、とビジョンを描いています。

樋口さんは「大きなことはできないが、今後につながるきっかけ、土台作りをしたい」と強調。新たな切り口から持続可能なまちを目指し、活動の継続を見据えています。



▶委員会メンバーを囲む妻有（左）高木（右）村上（右）



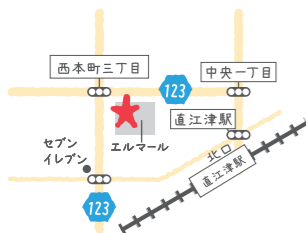
はばたけ！ 大麦フェスティバル！

上越産の大麦を使用した
おいしいものが盛りだくさん！

とき 10/22(土)
10:00~16:00

ところ 直江津ショッピングセンター エルマール

出店 板倉ジェラートニーナ
おいしいパンの店ソフィー
新潟県立高田農業高校
公益社団法人上越青年会議所
居酒屋毘沙門
おはぎの春の屋
株式会社ワコーフーズ
予定



“上越発クラフトビール”の ネーミング候補に投票しよう！

アンケートへの回答と、5つの候補の中から「推しネーミング」への投票は以下の二次元コードから。決定したネーミングとラベルデザインは、10/22(土)に（直江津ショッピングセンターエルマール）で開かれる「はばたけ！ 大麦フェスティバル」にて発表されます。

上越発クラフトビールの特徴

- その1 色は淡いピンク
- その2 上越のさくらの葉を使用して香付け
- その3 大麦はピルスナーに製麦し、アルコールが苦手な方でもおいしく飲めます

回答は一人1回まで。メ切は8/30(火)。

▶アンケート・投票フォーム



上越青年会議所 サステナブル上越委員会

